

「障害者週間」をご存じですか？

障害者基本法（第九条第一項）

〔障害者週間〕

国民の間に広く基本原則に関する関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加することを促進するため、障害者週間を設ける。

12月3日～9日は「障害者週間」です

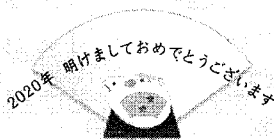


(共同募金からの助成金の一部で作成しています。)

編集 NPO法人 埼玉県障害者協議会  
編集責任者 田中 一  
〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1  
埼玉県障害者交流センター内  
TEL048 (825) 0707 FAX048 (825) 3070  
メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp  
発行 NPO法人 埼玉県障害者センター  
〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1  
埼玉県障害者交流センター内  
TEL・FAX 048 (833) 7027  
発売日 毎月10日、20日、30日  
定価 一部 100円(購読料は会費に含まれます)



# 障害者の自立と共生社会をめざし、 40年の歴史をきざみ続ける



NPO法人 埼玉県障害者協議会 代表理事 <sup>たなか</sup> 田中 <sup>はじめ</sup> 一

●はじめに

今年、東京オリンピック・パラリンピックイヤーです。共生社会、心のバリアフリーをめざす大きなチャンスになることを期待しています。また、昨年は、ラグビーワールドカップで日本代表の決勝トーナメント進出は日本中を熱狂させました。「ONE TEAM」の力でした。7か国15人の海外出身選手を含む31人は「ONE TEAM」で結束し、快進撃を続けたことは記憶に新しいところです。当協議会も加盟36団体が「ONE TEAM」で結束し、埼玉の障害者福祉を前進させましょう。

●歩みを振り返りつつ

本協議会は1980年（昭和55年）の国際障害者年を契機に1981年（昭和56年）県内の障害者団体36団体が、障害種別、思想・信条を超えて大同団結し、障害者福祉の向上をめざし設立し、2008年（平成20年3月）NPO法人の認可を受け、本年で40年目を迎えました。今年、障害者自立支援法違憲訴訟の「基本合意」から10年です。国は、障害者自立支援法が、障害者・家族の尊厳を、深く傷つけたことを認め、法の廃止と新法制定を確約し、「障害者福祉施策の充実は、憲法等に基づく障害者の基本的人権の行使を支援するものである」と約束しました。2020年（令和2年）1月7日【基本合意10年全国集会】

で基調講演をされた佐藤久夫さん（日本社会事業大学名誉教授）の『普通の市民として社会参加をあきらめない障害当事者が増えてきた。自己責任・家族責任の「古い器」がもたなくなりつつある』という発言は、障害者の今を象徴する印象的な言葉でありました。また、「全世代型社会保障改革」の動向も注視する必要があります。介護保険法施行20年の節目の年でもあります。夏には、ジュネーブの国連障害者権利委員会で、障害者権利条約（2014年（平成26年）1月条約を締結）の日本の実施状況が初めて審査され勧告が出されます。2016年（平成28年）7月26日におきた津久井やまゆり事件の公判（3月16日判決予定）も始まります。優生保護法訴訟、障害者雇用の水増し問題、障害者差別解消法の見直し改正なども注視していく必要があります。埼玉県では、2021年（令和3年）4月からはじまる第6期埼玉県障害者支援計画、第6期埼玉県地域福祉支援計画の策定年に当たります。そして、埼玉県教育委員会の障害者雇用の問題についても目が離せません。

【私たちのことを、私たち抜きに決めないで】

という障害当事者の声が尊重されて、「差別や偏見のない、あたりまえに地域でいきいきと自立して暮らせる地域共生社会」をめざし、一緒に歩みを進めていきましょう。

# 地区研修会 開催報告



日本オストミー協会 埼玉県支部 かつさい葛西 まこと誠

11月16日（土）熊谷市商工会議所において日本オストミー協会埼玉県支部の医療研修会を実施しました。テーマは、流山中央病院 十束英志先生の『がん治療 現状と展望』及び三郷中央病院 WOC 柴田智恵子先生「ストーマケアについて」です。会場には、46名の会員、医療関係者が参加しました。

I。『がん治療 現状と展望』は、がんの疫学として、現代の死因ランキング、年代別 死因ランキング、臓器別 罹患数／死亡数ランキングの説明後、がんの種類による地域・人種差などデータが示されました。原因論として、①食生活、発がん物質一覧、②遺伝性がん、③感染症、④騒音などのストレスとがんの関連があります。治療法は外科的、化学療法、放射線、免疫、民間（？）があります。民間療法として、笑い／リラックスの有効性、瞑想、「前世療法」＝「内観法」、温泉療法など紹介がありました。がんの告知は、がんである秘密を持つことによりぎくしゃくして、信頼感の欠落した家族と孤独に陥る患者よりも、告知することで家族が一つとなってがんと闘う心のつながり、勇気を与えられる患者を目指しているという背景が説明されました。



II。「日常生活での基本的なオストミーケア」は、ストーマは、回腸導管、結腸ストーマ図解、装具のパーツの紹介、袋は、便や尿を貯め、直腸や膀胱の代わりとなり、排泄物を衛生的にトイレに排泄できる生活を継続する為に欠かせない装具です。装具は、大切な体の一部、装具の交換時期、平時と非常時の緊急事態の対処についての注意点が説明されました。ストーマ受け入れるには時間がかかるので、退院後ストーマ外来を利用する。平時の緊急事態への対策は訪問看護の利用など病院の相談員に相談することも重要である。外出時、ヘルプマークも利用するのも有効との事であります。がん治療専門医として、がんを治す、身体的苦しみからの解放、介護の現場から、ストーマを抱えながら生きていく精神的、社会的苦痛をいかに和らげていくかの視点で、オストメイトのQOLの向上に役立てるに有意義な研修会でした。このような場を与えていただいた埼玉県障害者協議会に感謝、有難うございました。

# わたしたちは、今!

## 今秋、美里グループホーム竣工・開所

社会福祉法人 歩む会福祉会 ねぎぼうず作業所  
あきやま まりこ  
秋山 真理子

今から24年前に、地域の中古住宅を購入し、男子ホームとしてスタートしました。その3年後には、学生寮だった建物を賃貸で女子ホームも始まりました。仲間達が豊かにくらす環境整備を保護者や地域の協力者・養護学校の先生達・施設の職員と、みんなで力を出し合い、事業を進めてきました。

そして、今から7年前に男子グループホームの新築にこぎつきました。新築っていいなと感じた事は、まず寒くない。次に入浴後に洗った洗濯物が翌朝には乾いてしまう事。春から秋は、自分のお気に入りのシャツ数を毎日着用できてしまう程です。

そんな光景を見聞きしていた女子ホームの関係者の皆さんは、「私達も新しいホームでくらしたい!」と要望が出されるようになってきました。そして、プロジェクトチームを立ち上げ、検討を重ねてきた結果、この9月に竣工をむかえる事ができました。

物資両面に渡り、たくさんの皆様にお世話になり、この日を迎えられる事、本当に感謝感謝です。

そして、新しくなった環境の中での仲間達のくらしはというと、「建物が広がったので、良く歩けるから体重が減ってきた」「居室の床にマットがはいていて、安心できるよ」「お風呂が広くて、壁もピンクでいいよ」「自分の部屋でテレビが見れるので、幸せだよ」等々の声をいただいています。

来春には、本庄にある山ぼと作業所が竣工開所します。仲間達の願いを実現していくために、これからもみんなで力を合わせ歩んで行きたいと思います。



## 三つの切実な要求

障害児を守る所沢連絡会  
くすだ ふさお  
会長 楠田 房雄

当会は、45年前に結成され、以来障害者の生活と権利を守るため、要求運動を大切な柱としてきました。今年度の要求書には以下の三つを盛り込みます。

### 1. 親亡き後の障害者のくらしの場の保障

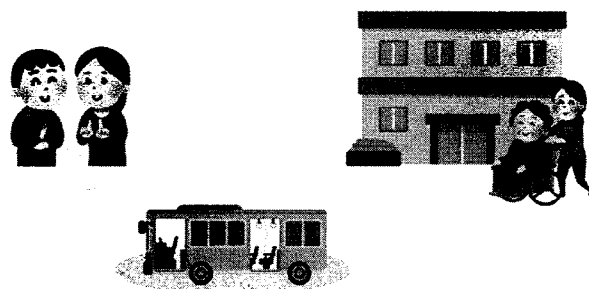
市内の入所施設の総定員数は162人、グループホームも第4次障害者支援計画の目標では、3年間で64人増に過ぎません。「所沢市障害者団体協議会」と市との懇談でも、グループホームへの支援は重要な争点となっています。

### 2. 安心安全な街づくりと移動の保障

鉄道・バスなどの公共交通機関、各種車輛輸送、道路や公共建築物など、要求は多岐に渡ります。それらを総合的に受け止める「所沢市交通バリアフリー推進協議会」を復活させ、要求が直接届けられるようにする必要があります。

### 3. 意思疎通支援の充実

聴覚障害者には早期に「手話言語条例」制定が、視覚障害者には代筆代読制度の創設と人の配置、読み書き用機器の保障の充実が欠かせません。



【埼玉リウマチ友の会と一般社団法人埼玉県障害難病団体協議会の合同企画】  
 会員のための文化活動

# 那須高原への日帰り旅行



那須オルゴール会館前にて

一般社団法人 埼玉県障害難病団体協議会

こやま じゅんこ  
 小山 潤子

令和元年11月13日（水）に、リフト付きの豪華大型バスで満員御礼……。沢山の参加で那須高原へと、日帰り旅行に行きました。見学場所は、那須オルゴール美術館とチーズガーデン。

昼食は、ホテルエピナール那須での限定ランチということで、とても楽しみにしていました。変わり中華のコース

料理というような、ボリュームもあり、スープがとても美味しかったです。

昼食後に、オルゴール美術館へいきました。館内をガイド付きで案内をしてもらったので、素通りしていくような箇所も、詳しく説明してもらったおかげで、オルゴールにこんな種類があって、歴史があることを知ることができました。

その後は、近くにあるチーズガーデンに行きました。ここまで、お土産をゆっくり買う時間がなかったので、ここでお土産を買いました。チーズガーデンでは、試食があらこちらにあって、食べてから買えるのでよかったです。

残念ながら、紅葉はあまりみられなかったですが、晴天に恵まれて本当によかったです。今回はリウマチと障難協の合同参加でしたが、いろいろな方と交流がもてバスの中で自己紹介したり、お菓子が回ってきたりと、楽しい1日でした。



## ◇ 編集後記 ◇

令和の時代が本格的に始まる年。オリパラの年。障害者協議会40年の年。さまざまな想いを今年にかける年。重い障害をもつ二人の議員の国政での活動も2年目に入る。2人が「私たち抜きに福祉の法律を作らないで」と国会で実践すれば、障害者の課題を共有できるとともに、共生社会に近づけるのではないだろうか。

(田中)

